

## 令和5年度 教育目標・重点行動計画 自己評価

評価 A 達成 B 一定達成 C 十分達成していない

### 1 中等教育学校6年間の教育実践の振り返り 中高一貫教育の特長を

教育目標・重点行動計画	評価	期末 自己評価
①成果と課題の整理から次なる改善	B	学校としての成果と課題について、職員全員で議論し、企画委員会において論点を整理し、重要度の高いものを抽出した。今度、優先順位の高いものから順次対応を検討し改善していく。
②海外研修の再開の検証と今後の在り方について研究	A	全員で参加する2回の海外研修は、費用が著しく高騰したことから、海外全員研修を3年次のシンガポール・マレーシア研修のみとし、4年次は希望者対象の研修をオーストラリア、セブ島、カナダ等に拡大、5年次は国内における語学研修を行う新たな方針を打ち出した。
③キャリア教育体系の充実	B	キャリア教育の一層の体系化を図るとともに、学年ごとにより具体的な活動を明確にするためにもう1年継続して検討していくことになった。
④性教育の体系化	A	性被害・加害も含めて性教育の体系化を策定したが、学年の状況を鑑みて弾力的に運用することも可能とし、次年度から実施していく。
⑤人権教育の体系化の実践検証	B	昨年度体系化したものを各学年実施すべく人権学習の時間を確保し実践したが、今後さらに実践を継続し、6年間を通して一層充実させていく。
⑥中等教育学校紹介の英語版作成リーフレット・動画・新聞	B	英字新聞のほか、英語版のリーフレットを作成し、海外研修に持参することができた。他の取組についても今後実施していく。

### 2 進学指導の充実

教育目標・重点行動計画	評価	期末 自己評価
①進学実績の向上	A	昨年度よりも大幅に国公立合格者数および難関大学合格者数を増やすことができ、V字回復を達成することができた。
②総合型選抜や学校推薦型入試への対応 小論文・面接・志願書等重視	B	学力の底上げを意識しつつ、新しい入試形式に対応すべく、生徒一人ひとりの志願理由書、小論文、面接などの指導を、担任を中心にしつつも専門性のあるスタッフの導入も行い、精一杯行った。今後も教職員の指導力をあげるとともに、細やかに生徒のニーズに対応できる体制を堅持する。
③「情報」の共通テスト導入に対する研究と対応	B	様々な研究会に出席し情報を収集することができた。夏期講座などで「情報」の講座も行ない、本番を迎える次年度への準備を始めた。次年度以降の本格的な取組を進めていく。

### 3 主体性ある生徒の育成

教育目標・重点行動計画	評価	期末 自己評価
①ボランティア活動の奨励	A	4年生を中心に、3年生も加わって、週末のボランティア活動に、年間70日、延べ250人以上の生徒が活動し、地域社会に貢献するとともに多くのことを学ぶなど画期的な取組ができた。
②校外のコンテスト等へのチャレンジ推奨	A	ほぼ全学年にわたり多くの生徒が校外のコンテスト等の活動にチャレンジし、優秀な成績を収めることができた。
③朝自ら進んであいさつをする生徒60%以上	C	挨拶が返せる生徒は80%を越えるが、自ら挨拶する生徒はまだ50%未満である。
④英語検定等資格取得の奨励	B	各学年が主体となり、受験対策講座を実施するなど、積極的な受験を奨励し、多くが受験した。ただし、合格率はやや伸び悩んだ。
⑤意識向上につながる防災教育	B	隣接の鈴鹿高校と合同の防災避難訓練の実施や生徒会役員とともに防災倉庫の備蓄品や機器の点検および確認を行うなど例年になく取組を実施することができた。今後も全校生徒並びに教職員の防災意識向上を目指し、工夫しながら実践していきたい。

### 4 教育環境の向上

教育目標・重点行動計画	評価	期末 自己評価
①スクールバスの利便性の向上	B	本年度より加佐登駅からのバスを新設しスクールバスの利便性を図った。今後とも毎年見直しを行い費用対効果も考慮しながら利便性の向上を図る。
②校内バリアフリー化に向けての研究	C	本館へのエレベーターの設置は課題と認識しており、次年度学園施設・設備中期計画策定において検討することとした。

### 5 教職員にとってやりがいのある環境づくり 働き方改革に向けて

教育目標・重点行動計画	評価	期末 自己評価
①業務の見直し、改革・削減をめざして、統合型校務支援システムの本格導入に向けた準備および試験的運用 ワークフローシステム構築による事務処理の効率化	B	統合型校務支援システムおよび簡易的なワークフローシステムは、令和6年4月から稼働すべく完成した。事務処理の効率化に貢献することになる。今後1年間には活用しながら使い勝手を良くするよう改善を加えていく。
②業務のスクラップ&ビルドの推進	C	業務のスクラップ&ビルドの重要性については認識しているが、実態としてなかなかスクラップが進まない現状がある。次年度から導入の統合型校務支援システムにより一定の改善が見込まれるものの、今後ともスクラップを推進していく。
③教育の今日的課題や資質向上のための個に応じた研修の促進	B	会議や研修会といった改まった場の設定は時間的には限りがあるが、初任研、2年研修、中堅研修、新卒者教科研修、学年会議、教科会議を軸とした研修体制には一定の成果があった。加えて、日常的な職員室での会話を始めとした情報共有や、校務支援ソフト導入を機に生徒個々の情報共有、個別最適化に繋げる仕組みを開発していく。

### 1 学年「何事にも全力で取り組む」

教育目標・重点行動計画	評価	期末 自己評価
○家庭学習の習慣化 平日 60 分以上、休日 180 分以上	C	家庭学習の習慣化は学力定着に不可欠であるのでずっと声掛けをしているが、目標とする学習時間を達成できている生徒とできていない生徒に分かれてしまっている。
○時間管理能力（タイムマネジメント力）育成 手帳と Classi の入力 100%	C	Classi の入力率は、平日は 8～9 割ほど定着は見られているが、休日や長期休暇となると入力率が下がってしまう。手帳に関しては、記入率が低く、忘れ物などが目立った。
○第 2 回学力推移調査（9 月実施）偏差値 A1 以上 35 名以上、B1 以上 70 名以上、D 層 10 名以下	C	第 2 回学力推移調査の GTZ では、A1 以上 18 名、B1 以上 58 名、D 層 10 名と目標に届かなかった。
○英語検定 受験率 100%、4 級以上 40%以上、5 級以上 100%	B	受験率はほぼ達成した。4 級以上は 48.2%が取得とよく頑張ったが、5 級以上の取得は 100%には未達。

### 2 学年「ふつうをちゃんと」

教育目標・重点行動計画	評価	期末 自己評価
○進路変更者 ゼロ	C	様々な事情で 3 名が進路変更となった
○第 2 回学力推移調査（9 月実施）偏差値 A1 以上 20 名以上、B1 以上 80 名以上、D 層 10 名以下	B	A1 以上 18 名、B1 以上 59 名、D 層 3 名で一定の達成は見られた。
○英語検定 準 2 級以上 10 名以上、3 級 医進コース 35 名以上 特進コース 24 名以上 英検対策講座開講（長期休業中）	B	準 2 級以上 21 名、3 級医進コース 40 名、特進コース 19 名で一定の達成は見られた。

### 3 学年「結果にこだわり、結果を出す」

教育目標・重点行動計画	評価	期末 自己評価
○学校外での活動に参加 30 名以上	A	主体となって活動を企画、牽引した者は 22 名、参加者や協力者を併せると 50 名以上の生徒が学校外でのボランティア、ときめきサポート事業、各種コンテスト等の活動に参加していた。
○第 2 回学力推移調査（9 月実施）、偏差値 A1 以上 30 名以上、B1 以上 90 名以上、D 層 5 名以下（5 年次の目標 A1 以上 40 名以上、B1 以上 100 名以上、D 層 0 名を見据えて）	B	A1 以上 27 名、B1 以上 76 名、D 層 3 名となった。D 層を作らないきめ細やかな指導はできていたが、中位～上位層を伸ばすことについては、若干当初目標を下回った。
○英語検定 2 級以上 35 名以上、準 2 級以上 100 名	C	英語検定 2 級以上 23 名、準 2 級以上 66 名となった。学習の中心が英語から数学・理科に移行している様子が見られた。

#### 4 学年「主体性ある学習者」

教育目標・重点行動計画	評価	期末 自己評価
○大学に関する調査を行う 100% 大学調べ、オープンキャンパスや学園祭への参加	A	全員がオープンキャンパスに参加し、大学・学部学科に関するプレゼンを行った。
○ボランティア活動・外部コンテスト参加周知・促進	A	70 名以上(累計 250 名以上)の生徒がボランティア活動に参加したことは特筆すべきこと。
○スタディサポート・進研模試 S3 以上 25 名以上、A3 以上 70 名以上	B	11 月進研模試 S3 以上 23 名以上、A3 以上 69 名以上とほぼ目標に近づいた。
○全統模試(偏差値) 60 以上 25 名以上、50 以上 70 名以上	A	第 2 回全統模試 60 以上 30 名以上、50 以上 68 名以上
○英語検定 2 級以上 30 名以上、準 2 級以上 70%以上、3 級以上 90%以上	A	2 級以上 40 名、準 2 級以上 70%、3 級以上 82%と目標をほぼ達成した。

#### 5 学年「自分と進路を俯瞰する」

教育目標・重点行動計画	評価	期末 自己評価
○5 年終了時、志望学部・学科を明確に持つ 100%	B	ほぼ全員の生徒が、志望学部・学科を明確化し、その目標に向け学習に臨んでいる。
○スタディサポート・進研模試 GTZ S3 以上 25 名以上、A3 以上 65 名以上、B3 以上 100 名以上	C	S3 以上 15 名、A3 以上 50 名と目標には届かなかったが、初めて理科、社会が入ってきた模試に向け、学習計画・実践に努めることができた。
○全統高 2 模試 3 教科偏差値 70 以上 10 名以上、60 以上 25 名以上、50 以上 75 名以上	C	偏差値 70 以上 3 名、60 以上 18 名と目標には届かなかったが、共通テスト模試と合わせ、新課程入試に対応しようと努力を続けている。
○英語検定 2 級以上 55 名以上、準 2 級以上 65 名以上	B	2 級以上 34 名、準 2 級以上 70 名であった。

#### 6 学年「Beyond Borders」

教育目標・重点行動計画	評価	期末 自己評価
○共通テストにおける得点率 75%以上 20 名以上、60%以上 50 名以上	B	75%以上 19 名、60%以上 55 名という結果であった。90%以上 4 名と最上位が健闘した。
○全統記述模試 総合偏差値 60 以上 20 名以上、50 以上 50 名以上	A	総合偏差値 60 以上 23 名、50 以上 57 名であった。
○志望校過去問の少なくとも 5 年分演習 100%	A	達成率 93%。最新の赤本にとどまらず古い赤本も活用している生徒も多く、順調に過去問演習を行うことができた。

保護者アンケート 集計			令和4年度(7月)				令和4年度(12月)				令和5年度(7月)			
			そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない
1	教育目標	建学の精神である「誠実で信頼される人に」が生徒や保護者に明確に示され、学校教育目標に基づき運営されている	46.8%	47.1%	5.7%	0.4%	38.3%	56.1%	5.0%	0.6%	47.5%	47.3%	4.9%	0.4%
2	学習指導	学習指導において生徒一人ひとりの状況や習熟度に応じた適切な指導をしている	44.3%	45.0%	9.7%	0.9%	39.6%	49.6%	8.9%	1.9%	43.6%	47.6%	7.7%	1.1%
3	進路指導	学年に応じた進路指導が充実している	48.1%	45.3%	6.1%	0.6%	43.4%	49.6%	6.0%	1.0%	47.4%	47.4%	4.5%	0.7%
4	生活指導	基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導が行われている	40.2%	48.1%	10.3%	1.5%	35.3%	54.7%	8.9%	1.2%	40.4%	48.9%	9.0%	1.6%
5	教育相談	一人ひとりの生徒の様子を常に把握し、親身になって悩みや相談にのってくれる	48.1%	43.8%	7.0%	1.1%	48.3%	44.0%	6.4%	1.4%	46.5%	46.7%	6.3%	0.5%
6	学校生活	学校行事やクラブ活動などで、生徒の活躍できる機会が多い	37.7%	49.5%	11.5%	1.3%	34.0%	50.7%	13.0%	2.3%	37.0%	52.7%	9.0%	1.3%
7		保護者の意見を真摯にうけとめ、親切に物事に対応してくれる	44.9%	48.1%	6.4%	0.6%	42.4%	52.1%	4.7%	0.8%	45.3%	49.5%	4.3%	0.9%
8	教育環境	安心・安全で満足いく施設・設備である	60.7%	35.2%	3.5%	0.6%	59.3%	35.8%	4.4%	0.4%	59.5%	36.7%	3.2%	0.5%
9	家庭との連携	学校からの情報はメール配信・ホームページや通信等で十分に保護者に伝わっている	53.3%	38.6%	7.5%	0.5%	53.5%	39.8%	5.6%	1.2%	55.6%	39.0%	4.3%	1.1%
10		保護者会活動が活発である	32.6%	54.7%	12.3%	0.4%	29.5%	58.1%	11.4%	1.0%	34.0%	59.2%	6.3%	0.5%
11	満足度	子どもを入学させてよかった	60.5%	34.0%	4.8%	0.7%	58.7%	36.2%	3.7%	1.4%	61.7%	33.1%	4.1%	1.1%

# 令和5年度 教育目標・重点行動計画 鈴鹿中等教育学校

建学の精神 「誠実で信頼される人に」  
 学園経営方針 「生徒、保護者、地域の満足度向上」  
 学園の標榜 「すべては生徒のために～生徒が輝く学校づくりを目指して」

教育実践目標  
 1. 主体的な学びを育み、真の学力を養成します  
 2. 自主・自律の校風づくりをします  
 3. 違いを認め合い、自他を尊重する仲間づくり

## 重点目標及び行動計画

### 1 中等教育学校6年間の教育実践の振り返り 中高一貫教育の特長を

- ① 成果と課題の整理から次なる改善
- ② 海外研修の再開の検証と今後の在り方について研究
- ③ キャリア教育体系の充実
- ④ 性教育の体系化
- ⑤ 人権教育の体系化の実践検証
- ⑥ 中等教育学校紹介の英語版作成 リーフレット・動画・新聞

### 2 進学指導の充実

- ① 進学実績の向上
- ② 総合型選抜や学校推薦型入試への対応 小論文・面接・志願書等重視
- ③ 「情報」の共通テスト導入に対する研究と対応

### 3 主体性ある生徒の育成

- ① ボランティア活動の奨励
- ② 校外のコンテスト等へのチャレンジ推奨
- ③ 朝自ら進んであいさつをする生徒 60%以上
- ④ 英語検定等資格取得の奨励
- ⑤ 意識向上につながる防災教育



### 4 教育環境の向上

- ① スクールバスの利便性の向上
- ② 校内バリアフリー化に向けての研究

### 5 教職員にとってやりがいのある環境づくり 働き方改革に向けて

- ① 業務の見直し、改革・削減をめざして、統合型校務支援システムの本格導入に向けた準備および試験的運用  
ワークフローシステム構築による事務処理の効率化
- ② 業務のスクラップ&ビルドの推進
- ③ 教育の今日的課題や資質向上のための個に応じた研修の促進



## 学年目標

### 1 学年「何事にも全力で取り組む」

- 家庭学習の習慣化  
平日60分以上、休日180分以上
- 時間管理力（タイムマネジメント力）育成  
手帳とClassiの入力100%
- 第2回学力推移調査（9月実施）  
偏差値A1以上35名以上、B1以上70名以上、  
D層10名以下
- 英語検定 受験率100%  
4級以上 40%以上、5級以上 100%

### 2 学年「ふつうをちゃんと」

- 進路変更者 ゼロ
- 第2回学力推移調査（9月実施）  
偏差値 A1以上20名以上、B1以上80名以上  
D層 10名以下
- 英語検定  
準2級以上10名以上  
3級 医進コース35名以上  
特進コース24名以上  
英検対策講座開講（長期休業中）

### 3 学年「結果にこだわり、結果を出す」

- 学校外での活動に参加 30名以上
- 第2回学力推移調査（9月実施）  
偏差値 A1以上30名以上、B1以上90名以上  
D層5名以下  
（5年次の目標 A1以上40名以上、  
B1以上100名以上、D層0名を見据えて）
- 英語検定  
2級以上35名以上、準2級以上100名



### 4 学年「主体性ある学習者」

- 大学に関する調査を行う。100%  
大学調べ、オープンキャンパスや学園祭への参加
- ボランティア活動・外部コンテスト参加周知・促進
- スタディーサポート・進研模試  
S3以上25名以上、A3以上70名以上
- 全統模試（偏差値）  
60以上25名以上、50以上70名以上
- 英語検定  
2級以上30名以上、準2級以上70%以上  
3級以上90%以上

### 5 学年「自分と進路を俯瞰する」

- 5年終了時、志望学部・学科を明確に持つ 100%
- スタディーサポート・進研模試  
GTZ S3以上25名以上、A3以上65名以上、  
B3以上100名以上
- 全統高2模試 3教科偏差値  
70以上10名以上、60以上25名以上、  
50以上75名以上
- 英語検定  
2級以上55名以上、準2級以上65名以上

### 6 学年「Beyond Borders」

- 共通テストにおける得点率  
75%以上20名以上、60%以上50名以上
- 全統記述模試 総合偏差値  
60以上20名以上、50以上50名以上
- 志望校過去問 少なくとも5年分演習 100%



## 各教科の目標

ホームページに目標およびシラバスを掲載していますのでご覧ください。



学校法人 鈴鹿享栄学園

# 鈴鹿中等教育学校